

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873700367		
法人名	社会福祉法人 愛寿会		
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゆ		
所在地	西宇和郡伊方町川之浜594	(電話)	0894-53-0622
管理者	中村 理恵		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 23 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	10.7 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 1 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護 1	7 名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 83 歳	最低 63 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな自然の中、広い海が一望できる場所に3階建ての高齢者総合福祉施設があり、ホームはその1階にある。職員は利用者の思いを大切にしながら、共にリハビリ体操、散歩、家事等を楽しみ、温かい関係を築き、仲良く過ごしている。ホームは総合福祉施設の中の1事業所であり、これらの施設と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得られる等、日常的な連携の中で運営されている。地域との交流は活発で、ホームが地域の運動会や草取り、芋掘り等の地域活動に参加し、地元の方はホーム行事に気軽に参加する関係にある。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回の評価後、ホームは地域の一員としての活動・交流に努め、運営推進会議で参加者が発言しやすい運営を心がける等の改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
運営者、職員は外部評価の意義を理解した上で、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員は、自己評価がケアの見直しとなり原点に立ち返る機会になっていると考えている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議の内容は、ホームの実情や行事、衛生管理、外部評価等の報告及び質疑応答、出席者がホームを理解する方策(ホーム内の見学、行事への参加など)の検討等である。出席者から得られる地域の情報や、ホーム行事、会議の運営についての意見等をサービスの向上に活かしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の来訪時や行事への参加時、運営推進会議等で家族の意見を聞き、運営に反映させている。苦情・相談の窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族に説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
ホームは地域の運動会に出かけたり、草ひき、芋掘り等の地域活動にも参加している。また、地元の方は総合福祉施設と合同で行われるホームの夏祭り、運動会、敬老会等に参加する等、相互の交流が進んでいる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 汐風

記入者(管理者)
氏名 中村 利恵

評価完了日 平成 20 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域とのつながりをもちながら、その人らしい生活ができるように理念を作りあげている。	※	地域の人に、より理解していただけるようにさらに取り組んでいきたい。
			(外部評価) 職員全員でつくりあげた分かりやすい理念であり、ホームの居間の見やすい所に掲げているが、地域密着型サービスとしての理念ということが十分に表現されているとは言えない。	※	地域密着型サービスの意義・役割を十分反映した理念となるよう、検討を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者と職員で話し合い目標設定を行っている為職員一人一人が理解し日々実践している。		
			(外部評価) 理念の「ゆっくり、ゆったり」は利用者のケアや会話時に意識し、「笑顔で」は職員の笑顔が利用者や家族の明るさ、元気に繋がることを念頭に支援する等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 少しずつ家族様は理解して頂けているのではないかとと思われる。地域については運営推進委員会において理解してもらえるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 施設の位置が隣近所とは少し離れている。	※	施設の外に出て保育園児等に声かけしてもらえる環境作りを行っていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 施設全体での行事等で地域の人との交流がある。また、地域行事にも参加している。 (外部評価) ホームは地域の運動会に出かけたり、草ひき、芋掘り等の地域活動にも参加している。また、地元の方が福祉施設と合同で行われるホームの夏祭り、運動会、敬老会等に参加してくれる等、相互の交流が進んでいる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会を通し、いろいろな話ができる場を作るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員会の開催時、評価について話しあっている。質の向上に努め、又、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 運営者、管理者、職員ともに評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行っている。職員は、自己評価がケアの見直しとなり、原点に立ち返る機会になっていると考えている。前回評価後、ホームは地域の一員としての交流に努め、運営推進会議の出席者が発言しやすいよう配慮する等の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進委員会でいろいろな意見が聞かれ、それを職員会で報告し話し合いを行いサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 会議ではホームの実情や行事、衛生管理、外部評価等の報告及び質疑応答、出席者のホーム理解への方策（ホーム内見学、行事への参加など）等が検討されている。出席者から地域の情報を得たり、ホーム行事や会議の運営についての意見等をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の入退居や介護認定の更新の際、情報共有したり事故防止等の取り組みで連携している。介護相談の受け入れや意見交換も行っている。 (外部評価) 町担当者とは、利用者の手続き、ホームの状況報告、介護相談員との話し合いについて報告する等、日常的に行き来する機会があり、共にサービスの質向上に取り組んでいる。地域包括支援センターとも相談、話し合い等での交流がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を実際に利用された方がおられ、支援を行った。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員で理解している言葉の虐待もあるので、お互い注意し合いながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前には重要事項等、ここでの生活についての説明をしている。本人様と家族様には同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様の方から、意見・不満・苦情を言われることは少ない。	※	利用者様の希望を言えるような環境作りを行いたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・2か月に1回、利用者様の近況報告を送っている。何か変わったことや受診する際や受診後に報告している。 ・金銭管理では定期的に通帳のコピーを送り、家族様にサインして頂いている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、担当職員が書面で2か月に1回、家族に送っている。特に変化のある時はその都度報告している。金銭管理は3か月に1回、通帳等のコピーを家族に送り、サインをいただいている。管理できる利用者については、少額を自分で管理している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見を伺ったり、意見箱の設置をしているが意見箱には書かれていないが、口頭や文章にて意見が聞かれる。 (外部評価) 家族の来訪時や行事への参加時、運営推進会議等で家族の意見を聞き、運営に反映させている。苦情・相談の窓口は内部と外部に分けて、苦情対応の流れと共に文書に明記し、家族に説明している。	※	家族様から何でも言っていただけるような雰囲気作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、職員会を行っている。日々のケアの中で意見が出た場合は話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事や外出、また緊急時には職員の協力を得られるように努めているが、職員数が少ない現状で柔軟な対応が難しいばあいがある。	※	必要な人員を確保して、利用者のペースに合わせた支援をしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員が離職した時は、現在いる職員で利用者様が不安にならないように努めている。 (外部評価) 職員の異動時は重複勤務で利用者への影響を少なくする配慮をしている。離職の場合は、他の勤務者が利用者へ声かけや見守りを十分行なうことで、ダメージを最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人職員には、レポート等を使って進めている。また施設内での勉強会に参加して研修をしている。 (外部評価) 運営者は職員の育成に学習が大切と考え、勉強会・研修会への参加を奨励している。ホーム内では月1回の職員会で職員担当の勉強会、伝達研修、衛生講話、新人研修等を行っている。また、職員は法人本部主催の研修会にも参加している。外部のケアマネジャー研修やグループホーム連絡協議会の学習会にも、随時参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問等を行い、情報交換を行っている。		
			(外部評価) 管理者や職員は同一法人内のホームでの勉強会や相互訪問に参加し、学び合っている。地域の他ホームとの交流は管理者間では行っているが、職員の交流や相互訪問等は行われていない。	※	ホームの質向上のためには他法人のホームとの交流や連携も重要であるため、職員が地域のホームと勉強会や相互訪問等を通じて交流や連携できるよう、具体的な取り組みを進めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員間の親睦は図れているものの、スーパーバイザーは導入できていない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者を通し、一人一人の気持ちを理解し、楽しく働けるよう努めている。	※	職員のそれぞれの特技を生かしていける職場にしたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人の不安や思いを受け止め、安心してもらえるよう生活状態を把握するよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様と家族様の希望にて訪問散発・訪問歯科、他のサービスを利用できるように行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人様に合ったサービスが行えるよう事前に見学や面接を行っている。 (外部評価) 利用者がホームや職員に徐々に馴染めるよう、入居前にホームを見学してもらったり、職員が自宅訪問をしたり、在宅のケアマネジャーから情報を得るなど、工夫しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に利用者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように、注意をし声掛けや対応を行っており、また理念に掲げて共に支える関係を築くよう努力している。 (外部評価) 職員は利用者とりハビリ体操、カラオケ、囲碁、花壇の世話、洗濯物たたみ、料理等を共に楽しみながら行っている。そして、時には利用者から料理法、調理の下ごしらえ、昔話等を教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2か月に1回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族様と話し合う機会を取ったり、一緒に本人様を支える努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族様が気軽に面会できるように、また面会時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。行事も参加できるように計画し実施している。(運動会・夏祭り・敬老会等)		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力していただき、自宅への外出・外泊を行っている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者様同士支え合っている。移動時の付き添いに一緒に行かれたり、食事・おやつ時に誘い合っている。心身の状態や気分に変化する時は職員が介入し工夫している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の特別養護老人ホームに入所された方には一緒に遊びに行かれたり、家族様が来られた時、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して本人様の希望を聞き入れている。また、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者との会話、しぐさ、行動等から把握し、思いが叶うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にアセスメントを行い、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族様の意見、利用者間の状態、スタッフの意見を反映して介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者毎に職員の担当が決まっており、担当者が中心になって他の職員とも話し合いながら、利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に署名してもらい意見もいただいている。介護計画は利用者の日々のケアや記録と繋がるよう工夫されている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングを行い、また3ヶ月に一度見直しのため、カンファレンスを行っている。また、状態に変化があればその都度見直ししている。 (外部評価) 利用者の担当職員が毎月介護計画のモニタリングを行っている。特に変化がなくても3か月に1回は計画の見直しをしている。利用者の状況に変化が生じた時はその都度話し合い、新たな計画を立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜勤の間引継ぎを行い情報を共有している。	※	24時間シートを使用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 併設ということもありグループホームで生活困難になった場合には家族様の相談にて特別養護老人ホームの移行を支援している。 (外部評価) 利用者の体調が気になる時は、総合福祉施設の看護師に相談したり、急な受診に対応したり、入院時も継続的に見守っている。また、冠婚葬祭のための外出、家族のホーム内での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進委員会に来ていただいたり、ご近所の方には行事に来ていただいたりしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 併設の特別養護老人ホーム・在宅支援センターのケアマネジャーと話し合い、本人にとって必要な支援をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異変時は主治医と家族に聞き対応している。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関による2週間に1回の往診や、年に1回の健康診断を実施している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医に連絡を取り、その都度アドバイスを受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 特別養護老人ホーム併設のため、特養の看護職員に相談したり、見ていただいたりしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 早期退院に向けて、入院している病院と密に情報交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在看取りはしていない。重度化した場合は些細なことでも家族様に連絡している。 (外部評価) ホームでは重度化や終末期の対応は行っていない。医療・看護行為が必要になれば、総合福祉施設の特別養護老人ホームやその他施設への転居を支援している。これらのことは早い時期から利用者や家族にも説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化や終末期のケアは行っていない。しかし、日々の状態をみながら特養の看護師の協力を得て、主治医との連絡を密にして老健、特養へと移行をスムーズに行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換を行い、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように連携を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) いかなる時も自尊心、プライバシーを損なわない対応を経過記録の保存も気をつけている。又、個人情報は施設外で話さないよう声かけしている。 (外部評価) 利用者を年長者として尊重し、丁寧な言葉かけを心がけている。また、入浴やトイレの介助はできるだけ同性介護を行っている。記録類は個人情報に配慮し、事務室で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を聞き自己決定できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切に希望に沿って支援するように心がけているが、時間に追われると業務を優先してしまうことがある。 (外部評価) 入浴を毎日希望する方、食事をゆっくり食べる方、時間がかかっても自力で移動する方などを温かく見守る等、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類等は家族に相談してもらって来て頂いたり購入したりしている。また、理、美容は訪問理容師に来て頂いている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため献立は管理栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝って頂いている。 (外部評価) 献立表の食材の調理法を変えることで利用者の好みに対応する等、食事が楽しめる工夫をしている。また、一人ひとりの力量を大事にした食事介助を行い、利用者の状態によって刻み食にしたり、とろみをつけることもある。利用者と職員と一緒に食事を作り、片付けを行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人様が望む飲み物やおやつを楽しめるように支援している又、家族が持って来られた時は飲んで頂くよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日はできるだけ入浴してもらえるようにしている。入浴できない日はシャワー浴、足浴、清拭等利用者個々の状態に応じて支援をしている。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。 (外部評価) 入浴の支援は同性介助を心がけている。また、希望すれば毎日でも入浴できる体制がある。介護度が高く、ホームでの入浴が難しい時は、同じ建物内の総合福祉施設の機械浴を利用している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、利用者一人ひとりの体調や意思に配慮しながら、できるだけ身体を動かして頂き生活リズムを整えている。寝付けないときには温かい飲み物を提供するなど睡眠を促す工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりができる役割を考えて洗濯たみ、食材の下ごしらえ、縫い物等をして頂いている。又、気分転換に散歩に行ったり音楽鑑賞等を行っている。 (外部評価) ホームの近辺を散歩したり、囲碁や演歌を楽しんだり、花壇の水やりや草ひき、調理の下ごしらえ、洗濯物たみ等、利用者の気晴らしや役割の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所が管理しており、利用者が金銭管理を行えないが、家族と相談して希望に応じて小銭を所持している人もいる。外出時に買い物体験をしていただくなどの支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の天気、時間のよいときに短時間でも外に出られるようにしている。 (外部評価) 利用者がホームの周辺を散歩して回りの景色を眺めたり、中庭で日光浴をしたり、時には、近くの温泉で足湯を楽しんだり、お花見やぶどう狩りに出かける等の支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 季節に応じて、年間行事計画は立てて近場辺りを職員同士(行事担当者)で話をしている。家族様にも手紙等で呼びかけをしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ロビーまで行かれテレホンカードを持ち、自由に電話をかけられる		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問していただけるように、来やすい雰囲気作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。また、勉強を行っている。	※	新しい職員に対して、勉強を行いたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関の鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、見守り、声掛けを行ったり、一緒に近くを散歩するなど、安全面に配慮しながら出来るだけ自由に過ごせるよう支援している。 (外部評価) 職員は、玄関に鍵をかけないことの意義を理解しており、日中の玄関や居間に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に見守り、確認しやすい位置で記録などの作業をしたり職員同士で声掛け合っている。また、状態把握できるように努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤など、注意が必要な物品は使用后、決められた場所に保管している。薬は利用者個々の薬ケースに保管し朝、昼、夕、セクションに置き、間違いのないように気をつけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書やヒヤリハットを検討し事故防止を共有、徹底するように努めている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。 緊急時の対応について、見やすいところに貼っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者様が避難できる方法を身に付けている。 (外部評価) 総合福祉施設全体で年2回の防災訓練を行っており、ホームも参加している。夜間想定での訓練を実施し、避難場所や備蓄の確認も行っている。ホームは地域の協力を得られる方策を検討しているが、具体的な協力体制は確立していない。	※	地域との連携体制をもっと密に図っていきたい。 災害時には職員だけの対応には限界があるため、いざという時に地域の協力が得られるよう、日頃から話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みをすすめることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ヒヤリハットの検討をしてリスクマネジメントを話し合い家族様にも説明し、事故の起こらないように日々の生活を安心して過ごせるように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状態を職員は把握している。食欲、顔色、様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況に応じて医療受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルやチェック表を作成し、指示通りの服薬ができるように支援している。また、服薬している薬の効果や目的、副作用が理解できるよう処方箋、文献で把握できるようにしている。臨時薬が出た場合は申し送りや連絡ノート、口頭で確かめ合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事、運動、水分量、便秘薬等で工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回声掛け合い、習慣つけて清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 施設の管理栄養士に相談しながら、利用者の摂取カロリーや栄養のバランス管理に努めている。利用者の摂取状態を把握して食事量や切り方等を配慮している。 (外部評価) 食事摂取量はその都度把握し、水分量は必要時にチェックしている。一人ひとりの力量を大事にした食事介助を行い、利用者の状態に合った形態の工夫をしている。法人の栄養士が献立をたて、栄養バランスや必要カロリーの確保に努めている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルに沿って勉強会を行っている。また、感染症対策委員会を設置している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎回冷蔵庫チェックを行い新鮮で安全な食材の使用、管理に努めている。調理場の衛生管理、調理人の手洗いの励行に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入り口には、看板をつけ、分かりやすく工夫している。玄関には、季節の花を飾ったり、写真を掲示したりして親しみやすい雰囲気になるように心がけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節が分かるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁掛け（壁飾り）等作成したり、居心地よく過ごせるように利用者の希望を取り入れている。また、利用者は冬にはこたつも置かれる畳の間で囲碁を楽しんだり、それぞれの思い思いの場所で過ごしている。 (外部評価) 玄関はユニット毎に設置され、民家の玄関の雰囲気で見やすさがある。居間は明るくゆったりしていて、季節の花や利用者の作品が飾られ、見やすい時計や手作りの暦、ソファ、畳の間等があり、居心地よく過ごせる空間となっている。ホーム内は清潔感があり、気になる匂いや音もない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の心身の状態の変化に合わせ気分転換や安全確保のためソファの配置やテーブルの配置など配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、馴染みの物を持ってきてもらうようお願いするが、持参される人は少ない中で、できるだけ自分の居室らしくなるよう工夫している。 (外部評価) 居室には利用者の使い慣れた衣装ケースや冷蔵庫、仏壇等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋となっている。	※	本人の馴染みのものをもっと置くように家族に働き掛ける努力をし、利用者一人ひとりの希望に沿えるようにご家族と相談しながら居室の環境作りを進めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ホーム内は適宜換気を行っており、室温についても利用者の状態、言葉等観察しながら冷暖房なども利用して温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下など居住環境が適しているかどうか見直し安全確保に配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 表札や手作りのれんを掛け混乱を防ぐようにしている。	※	月1回の職員会の時見直し職員同士ズレのないようにしていく。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭や玄関先を利用者が日光浴や外気浴を楽しんだり、洗濯物の物干しに活用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者様との会話の中から利用者様の思いをくみとり、その思いを大切に支援できるように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	利用者全員ではないが、利用者と職員でレクリエーションをしたりして楽しむ時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりが落ち着く場所が確保されており、各自に合わせ生活を送っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の得意なことなどを支援することで生き生きとした表情がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望を聞き計画を立て、できる限り外出するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設のため、ナースに連絡、相談、報告を密にしている。また月2回、医師が回診に来ている。また、利用者自身も医師に相談している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況や要望に応じた支援を行い、安心して暮らしていけるよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	2か月に1度、家族に近況報告を行い、また、面会に来られた際には、家族の困っていることや不安なことを聴くようにし、家族と信頼関係を築けるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	以前生活をしてきた近所の人が面会に来られる。地域の人が訪ねて来やすいような働きかけをしていく。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進委員会において、委員の中から、行事においてボランティアや地域の人に応援していただけたらという意見をいただき、少しずつ事業所の理解者や応援者が増えるように努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の悩み等を話せる機会が持てていないため、心身等の疲れが解消されない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人様の希望を聞き、できるだけ希望に沿うようにしている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に常にねぎらいの言葉や感謝の言葉がある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)
氏名 中村 利恵

評価完了日 平成 20 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域とのつながりをもちながら、その人らしい生活が出来るように理念を作り上げている。	※	地域の人に、より理解していただけるようにさらに取り組んでいきたい。
			(外部評価) 職員全員でつくりあげた分かりやすい理念であり、ホームの居間の見やすい所に掲げているが、地域密着型サービスとしての理念ということが十分に表現されているとは言えない。	※	地域密着型サービスの意義・役割を十分反映した理念となるよう、検討を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者と職員で話し合い目標設定を行っている為、職員一人ひとりが理解し日々実施している。		
			(外部評価) 理念の「ゆっくり、ゆったり」は利用者のケアや会話時に意識し、「笑顔で」は職員の笑顔が利用者や家族の明るさ、元気に繋がることを念頭に支援する等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 少しずつ家族様は理解していただいているのではないかとと思われる。地域については、運営推進委員会において理解してもらえよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 施設の位置が隣近所と少し離れている。	※	施設の外に出て保育園児等に声掛けしてもらえる環境作りを行なっていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 施設全体での行事等で地域の人との交流がある。また、地域行事にも参加している。 (外部評価) ホームは地域の運動会に出かけたり、草ひき、芋掘り等の地域活動にも参加している。また、地元の方が福祉施設と合同で行われるホームの夏祭り、運動会、敬老会等に参加してくれる等、相互の交流が進んでいる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会を通し、いろいろな話ができる場を作るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員会の開催時、評価について話し合っている。質の向上に努め、また、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 運営者、管理者、職員ともに評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行っている。職員は、自己評価がケアの見直しとなり、原点に立ち返る機会になっていると考えている。前回評価後、ホームは地域の一員としての交流に努め、運営推進会議の出席者が発言しやすいよう配慮する等の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進委員会でいろいろな意見が聞かれ、それを職員会で報告し、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 会議ではホームの実情や行事、衛生管理、外部評価等の報告及び質疑応答、出席者のホーム理解への方策（ホーム内見学、行事への参加など）等が検討されている。出席者から地域の情報を得たり、ホーム行事や会議の運営についての意見等をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の入退居や介護認定の更新の際、情報共有したり事故防止等の取り組みで連携している。介護相談の受け入れや意見交換も行なっている。 (外部評価) 町担当者とは、利用者の手続き、ホームの状況報告、介護相談員との話し合いについて報告する等、日常的に行き来する機会があり、共にサービスの質向上に取り組んでいる。地域包括支援センターとも相談、話し合い等での交流がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を実際に利用された方がおられ、支援を行なった。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員で理解している言葉の虐待もあるので、お互い注意しあいながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前には、重要事項等ここでの生活についての説明をしている。本人様と家族様には同意を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様のご不満が出ることがある。そのことについてフロア一会で話し合っている。	※	その方の不満が少しでも満足になるように努めていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・2か月に1回、利用者様の近況報告を送っている。何か変わったことや受診する際や受診後に報告している。 ・金銭管理では定期的に通帳のコピーを送り、家族様にサインしていただいている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、担当職員が書面で2か月に1回、家族に送っている。特に変化のある時はその都度報告している。金銭管理は3か月に1回、通帳等のコピーを家族に送り、サインをいただいている。管理できる利用者については、少額を自分で管理している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見を伺ったり、意見箱の設置をしているが、意見箱には書かれていないが、口頭や文章にて意見が聞かれる。 (外部評価) 家族の来訪時や行事への参加時、運営推進会議等で家族の意見を聞き、運営に反映させている。苦情・相談の窓口は内部と外部に分けて、苦情対応の流れと共に文書に明記し、家族に説明している。	※	家族様から何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、職員会を行なっている。日々のケアの中で意見が出た場合は話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事や外出、また緊急時には職員の協力を得られるように努めているが、職員数が少ない現状で柔軟な対応が難しい場合がある。	※	必要な人員を確保して、利用者のペースに合わせた支援をしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員が離職した時は、現在いる職員で入居者様が不安にならないように努めている。 (外部評価) 職員の異動時は重複勤務で利用者への影響を少なくする配慮をしている。離職の場合は、他の勤務者が利用者へ声かけや見守りを十分行なうことで、ダメージを最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人職員には、レポート等を使って進めている。また、施設内での勉強会に参加して研修をしている。 (外部評価) 運営者は職員の育成に学習が大切と考え、勉強会・研修会への参加を奨励している。ホーム内では月1回の職員会で職員担当の勉強会、伝達研修、衛生講話、新人研修等を行っている。また、職員は法人本部主催の研修会にも参加している。外部のケアマネジャー研修やグループホーム連絡協議会の学習会にも、随時参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問等を行い、情報交換を行っている。		
			(外部評価) 管理者や職員は同一法人内のホームでの勉強会や相互訪問に参加し、学び合っている。地域の他ホームとの交流は管理者間では行っているが、職員の交流や相互訪問等は行われていない。	※	ホームの質向上のためには他法人のホームとの交流や連携も重要であるため、職員が地域のホームと勉強会や相互訪問等を通じて交流や連携できるよう、具体的な取り組みを進めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員間の親睦は図れているものの、スーパーアドバイザーは導入できていない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者を通し、一人ひとりの気持ちを理解し、楽しく働けるよう努めている。	※	職員のそれぞれの特技を生かしていける職場にしたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人の不安や思いを受け止め、安心してもらえるよう生活状態を把握するよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様と家族様の希望にて訪問散発・訪問歯科、他のサービスを利用できるように行なっている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人様に合ったサービスが行なえるよう事前に見学や面接を行なっている。 (外部評価) 利用者がホームや職員に徐々に馴染めるよう、入居前にホームを見学してもらったり、職員が自宅訪問をしたり、在宅のケアマネジャーから情報を得るなど、工夫しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意をし、声掛けや対応を行っており、また理念に掲げて共に支える関係を築くよう努力している。 (外部評価) 職員は利用者とりハビリ体操、カラオケ、囲碁、花壇の世話、洗濯物たたみ、料理等を共に楽しみながら行っている。そして、時には利用者から料理法、調理の下ごしらえ、昔話等を教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2か月に1回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族様と話し合う機会を取ったり、一緒に本人様を支える努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族様が気軽に面会できるように、また面会時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。行事も参加できるように計画し実施している。(運動会、夏祭り、敬老会等)		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力していただき、自宅への外出、外泊を行なっている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者様同士支え合っている。移動時の付き添いに一緒に行かれたり、食事・おやつ時に誘い合っている。心身の状態や気分に変化する時は職員が介入し工夫している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の特別養護老人ホームに入所された方には一緒に遊びに行かれたり、家族様が来られた時、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して、本人様の希望を聞き入れている。また、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者との会話、しぐさ、行動等から把握し、思いが叶うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にアセスメントを行い、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族様の意見、利用者間の状態、スタッフの意見を反映して介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者毎に職員の担当者が決まっており、担当者が中心になって他の職員とも話し合いながら、利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に署名してもらい意見もいただいている。介護計画は利用者の日々のケアや記録と繋がるよう工夫されている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングを行い、また3か月に一度見直しのため、カンファレンスを行なっている。また、状態に変化があればその都度見直しをしている。 (外部評価) 利用者の担当職員が毎月介護計画のモニタリングを行っている。特に変化がなくても3か月に1回は計画の見直しをしている。利用者の状況に変化が生じた時はその都度話し合い、新たな計画を立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中、夜勤の間引継ぎを行い、こまめに情報を共有している。	※	24時間シートを使用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 併設ということもありグループホームで生活困難になった場合には家族様の相談にて特別養護老人ホームの移行を支援している。 (外部評価) 利用者の体調が気になる時は、総合福祉施設の看護師に相談したり、急な受診に対応したり、入院時も継続的に見守っている。また、冠婚葬祭のための外出、家族のホーム内での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進委員会に来ていただいたり、ご近所の方には行事に来ていただいたりしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 併設の特別養護老人ホーム、在宅支援センターのケアマネジャーと話し合い、本人にとって必要な支援をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 在宅支援センターのケアマネや社会福祉協議会のケアマネと本人の意向や必要に応じ協働している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異常時は主治医と家族に聞き、対応している。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関による2週間に1回の往診や、年に1回の健康診断を実施している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医に連絡を取り、その都度アドバイスを受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 早期退院に向けて入院している病院と密に情報交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在看取りはしていない。重度化した場合は些細な事でも家族様に連絡している。 (外部評価) ホームでは重度化や終末期の対応は行っていない。医療・看護行為が必要になれば、総合福祉施設の特別養護老人ホームやその他施設への転居を支援している。これらのことは早い時期から利用者や家族にも説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化や終末期のケアは行なっていない。しかし、日々の状態を見ながら特養の看護師の協力を得て、主治医との連絡を密にして老健、特養へと移行をスムーズに行なっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換を行い、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように連携を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) いかなる時も自尊心、プライバシーを損なわない対応を経過記録の保存も気をつけている。また、個人情報は施設外で話さないよう声掛けしている。 (外部評価) 利用者を年長者として尊重し、丁寧な言葉かけを心がけている。また、入浴やトイレの介助はできるだけ同性介護を行っている。記録類は個人情報に配慮し、事務室で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、自己決定できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切に希望に沿って支援するように心がけているが、時間に追われると業務を優先してしまうことがある。 (外部評価) 入浴を毎日希望する方、食事をゆっくり食べる方、時間がかかっても自力で移動する方などを温かく見守る等、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類等は家族に相談して持ってきていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容師に来ていただいている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため献立は管理栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。 (外部評価) 献立表の食材の調理法を変えることで利用者の好みに対応する等、食事が楽しめる工夫をしている。また、一人ひとりの力量を大事にした食事介助を行い、利用者の状態によって刻み食にしたり、とろみをつけることもある。利用者と職員と一緒に食事を作り、片付けを行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者本人に聞いて、できるだけ希望に沿った飲み物を選んでもらっている。また、お酒やタバコ等の嗜好品は現在のところ希望されている利用者はいない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は出来るだけ入浴してもらえるようにしている。入浴できない日はシャワー浴、足浴、清拭等、利用者個々の状態に応じて支援をしている。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。 (外部評価) 入浴の支援は同性介助を心がけている。また、希望すれば毎日でも入浴できる体制がある。介護度が高く、ホームでの入浴が難しい時は、同じ建物内の総合福祉施設の機械浴を利用している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、利用者一人ひとりの体調や意思に配慮しながら、できるだけ進退を動かしていただき、生活リズムを整えている。寝付けないときには温かい飲み物を提供するなど睡眠を促す工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりができる役割を考えて洗濯たたみ、食材の下ごしらえ、縫い物等をしていただいている。また、気分転換に散歩に行ったり、音楽鑑賞等を行なっている。 (外部評価) ホームの近辺を散歩したり、囲碁や演歌を楽しんだり、花壇の水やりや草ひき、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ等、利用者の気晴らしや役割の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所が管理しており、利用者が金銭管理を行なえないが、家族と相談して希望に応じて小銭を所持している人もいる。外出時に買い物体験をしていただくなどの支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の天気、時間のよいときに短時間でも外に出られるようにしている。 (外部評価) 利用者がホームの周辺を散歩して回りの景色を眺めたり、中庭で日光浴をしたり、時には、近くの温泉で足湯を楽しんだり、お花見やぶどう狩りに出かける等の支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 季節に応じて、年間行事計画は立てて近場辺りを職員同士(行事担当者)で話をしている。家族様にも手紙等で呼びかけをしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ロビーまで行かれテレホンカードを持ち、自由に電話をかけられる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問していただけるように、来やすい雰囲気作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行なっていない。また勉強を行なっている。	※	新しい職員に対して、勉強を行いたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関の鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、見守り、声掛けを行ったり、一緒に近くを散歩するなど、安全面に配慮しながら出来るだけ自由に過ごせるよう支援している。 (外部評価) 職員は、玄関に鍵をかけないことの意義を理解しており、日中の玄関や居間に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に見守り、確認しやすい位置で記録などの作業をしたり職員同士で声掛け合っている。また、状態把握できるように努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤など、注意が必要な物品は使用后、決められた場所に保管している。薬は利用者個々の薬ケースに保管し、朝、昼、夕、セクションに置き、間違いのないように気をつけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書やヒヤリハットを検討し事故防止を共有、徹底するように努めている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、見やすい所に貼っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者様が避難できる方法を身に付けている。 (外部評価) 総合福祉施設全体で年2回の防災訓練を行っており、ホームも参加している。夜間想定での訓練を実施し、避難場所や備蓄の確認も行っている。ホームは地域の協力を得られる方策を検討しているが、具体的な協力体制は確立していない。	※	地域との連携体制をもっと密に図っていききたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) ヒヤリハットの検討をしてリスクマネジメントを話し合い家族様にも説明し、事故の起こらないように日々の生活を安心して過ごせるように支援している。	※	災害時には職員だけの対応には限界があるため、いざという時に地域の協力が得られるよう、日頃から話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みをすすめることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状態を職員は把握している。食欲、顔色、様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況に応じて医療受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルやチェック表を作成し、支持通りの服薬ができるように支援している。また、服薬している薬の効果や目的、副作用が理解できるよう処方箋、文献で把握できるようにしている。臨時薬が出た場合は申し送りや連絡ノート、口頭で確かめ合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事、運動、水分量、便秘薬等で工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回声掛け合い、習慣付けて清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 施設の管理栄養士に相談しながら、利用者の摂取カロリーや栄養のバランス管理に努めている。利用者の摂取状態を把握して食事量や切り方等を配慮している。 (外部評価) 食事摂取量はその都度把握し、水分量は必要時にチェックしている。一人ひとりの力量を大事にした食事介助を行い、利用者の状態に合った形態の工夫をしている。法人の栄養士が献立をたて、栄養バランスや必要カロリーの確保に努めている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルに沿って勉強会を行なっている。また、感染症対策委員会を設置している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎回冷蔵庫チェックを行い新鮮で安全な食材の使用、管理に努めている。調理場の衛生管理、調理人の手洗いの励行に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入り口には、看板をつけ分かりやすく工夫している。玄関には季節の花を飾ったり、写真を掲示したりして親しみやすい雰囲気になるように心がけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節が分かるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁掛け（壁飾り）等作成したり、居心地よく過ごせるように利用者の希望を取り入れている。 (外部評価) 玄関はユニット毎に設置され、民家の玄関の雰囲気で見やすさがある。居間は明るくゆったりしていて、季節の花や利用者の作品が飾られ、見やすい時計や手作りの暦、ソファ、畳の間等があり、居心地よく過ごせる空間となっている。ホーム内は清潔感があり、気になる匂いや音もない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の心身の状態の変化に合わせて気分転換や安全確保のためソファの配置やテーブルの配置など配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、馴染みの物を持ってきてもらうようお願いするが、持参される人は少ない中で、できるだけ自分の居室らしくなるよう工夫している。 (外部評価) 居室には利用者の使い慣れた衣装ケースや冷蔵庫、仏壇等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋となっている。	※	本人の馴染みの物をもっと置くように家族に働きかける努力をし、利用者一人ひとりの希望に沿えるようにご家族と相談しながら居室の環境作りを進めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ホーム内は適宜換気を行っており、室温についても利用者の状態、言葉等観察しながら冷暖房なども利用して温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下など居住環境が適しているかどうか見直し安全確保に配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 表札や手作りののれんを掛け、混乱を防ぐようにしている。	※	月1回の職員会の時見直し、職員同士のズレがないようにしていく。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭や玄関先を利用者が日光浴や外気浴を楽しんだり、洗濯物の物干しに活用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者様との会話の中から利用者様の思いをくみとり、その思いを大切に支援できるように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	利用者全員ではないが、利用者と職員でレクリエーションをしたりして楽しむ時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりが落ち着く場所が確保されており、各自に合わせ生活を送っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の得意なことなどを支援することで生き生きとして表情がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望を聞き計画を立て、できる限り外出するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設のため、ナースに連絡、相談、報告を密にしている。また月2回、医師が回診に来ている。また、利用者自身の医師に相談している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況や要望に応じた支援を行い、安心して暮らしていけるよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	2か月に1度、家族に近況報告を行い、また面会に来られた際には、家族の困っていることや不安なことを聴くようにし、家族と信頼関係を築けるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	以前生活をしてきた近所の人が面会に来られる。地域の人が訪ねて来やすいような働きかけをしていく。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進委員会において、委員の中から、行事においてボランティアや地域の人に応援していただけたらという意見をいただき、少しずつ事業所の理解者や応援者が増えるように努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の悩み等を話せる機会が持てていないため、心身等の疲れが解消されない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人様の希望を聞き、できるだけ希望に沿うようにしている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に常にねぎらいの言葉や感謝の言葉がある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

伊方町の小学校の跡に建っており、近くに保育園がある。また、海も近く自然に囲まれています。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来でき、交流しやすいのが特徴です。合同での行事も多く、にぎやかな時間もあります。午前中はデイサービスでのリハビリ、午後からはユニット合同のリハビリ体操等で楽しく健康維持に励んでいます。